
いわて協創グローカル人材育成プログラム
令和 4 年度 活動報告書



いわてグローカル人材育成推進協議会

目 次

いわて協創グローカル人材育成プログラムについて	1
令和4年度 いわてグローカル人材育成推進協議会 年間取組状況	3
令和4年度 いわて協創グローカル人材育成プログラム 派遣学生一覧	4
派遣学生報告書 海上 晴香	5
派遣学生報告書 小澤 茂々花	8
派遣学生報告書 高橋 真央	14
当協議会における海外留学派遣支援実績	17
「いわてグローカル人材育成推進協議会」会員企業・団体	20

いわて協創グローカル人材育成プログラムについて

1 目的

本事業では、「グローカル」な視点から、地域の課題や豊富なリソースを現実的かつ創造的に見極め、課題を解決するとともに、岩手県の潜在的価値を最大限に引き出し、将来の岩手県を導くリーダー人材を、産学官一体となって育成することを目指します。

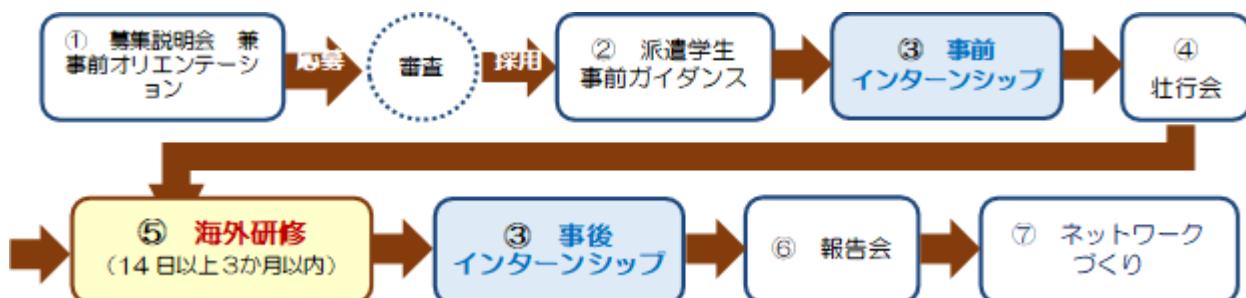
2 プログラム

- A. 県産品販路開拓人材育成プログラム
- B. ものづくり産業海外展開人材育成プログラム
- C. 交流人口拡大促進人材育成プログラム
- D. 持続可能型地域づくり人材育成プログラム
- E. 多様性人材育成プログラム

3 プログラム構成

応募予定の学生は、事前に実施される「募集説明会兼事前オリエンテーション」に参加し、本事業について理解した上で、コーディネーターや事務局に相談をしながらプログラムを作成し、応募します。

審査に合格し、採用された学生は留学期間前に事前ガイダンスに参加、県内企業などの事前インターンシップを行った後、14日以上3か月以内の海外留学・研修を行います。帰国後は、研修成果を地域に還元することを目的に、県内企業などの事後インターンシップを行います。



4 令和4年度実施スケジュール

内 容	上 期	下 期
募集期間	4/1~28	9/1~29
募集説明会	3/17,4/15	7/29,8/24,31,9/7,21
書類審査（一次審査）	5/10~16	10/5~12

内 容	上 期	下 期
-----	-----	-----

面接審査（二次審査）	5/28	10/22
派遣学生決定	6/1	10/27
事前ガイダンス	7/30,8/8	11/5,27
事前インターンシップ	留学開始前に実施（5日以上）	
壮行会	知事表敬(8/8) 協議会ウェブサイトに留学計画紹介動画を掲載	知事ビデオメッセージ (11/24) 協議会ウェブサイトに留学計画紹介動画を掲載
海外留学開始	8/1～11/30	12/23～3/9
事後インターンシップ	留学実施後速やかに実施（5日以上）	
事後報告会	令和5年6月7日（総会と同日）	

令和4年度 いわてグローカル人材育成推進協議会 年間取組状況

実施内容		
4月	4月1日(金)～28日(木)	上期海外派遣募集
	4月15日(金)	上期募集説明会
5月	5月9日(月)	第1回運営委員会
	5月10日(火)～16日(月)	第一次書面審査
	5月26日(木)～6月24日(金)	協議会総会（書面開催）
	5月28日(土)	第二次面接審査
6月	6月20日(月)	第1回グローカル人材育成プロジェクトミーティング(事務局・各大学等)
7月	7月11日(月)～20日(水)	第1回運営委員会（書面開催）
	7月29日(金)	下期募集説明会①
	7月30日(日)	第1回事前ガイダンス（ビジネスマナー等）
8月	8月8日(月)	岩手県知事表敬
		第2回事前ガイダンス（海外での危機管理等）、派遣学生紹介動画撮影
	8月24日(水)	下期募集説明会②
	8月31日(水)	下期募集説明会③
9月	9月1日(木)～29日(木)	下期海外派遣募集
	9月7日(水)	下期募集説明会④
	9月9日(金)	外国人と企業とのワークショップ開催
	9月13日(火)	外国人留学生等の県内企業訪問
	9月21日(水)	下期募集説明会⑤
10月	10月5日(水)～12日(水)	第一次書面審査
	10月20日(木)	外国人のインターンシップ受入募集開始（会員企業等）
	10月22日(土)	第二次面接審査
11月	11月5日(土)	グローバルキャリアフェア 事前オリエンテーション
		第1回事前ガイダンス（ビジネスマナー等）、派遣学生紹介動画撮影
	11月17日(木)	外国人留学生・JETプログラム参加者へのインターンシップ案内
	11月19日(土)	2022 グローバルキャリアフェア in 岩手 開催
	11月27日(日)	第2回事前ガイダンス（海外での危機管理等）
1月	1月23日(月)	第2回グローカル人材育成プロジェクトミーティング(事務局・各大学等)
	1月30日(月)	第3回運営委員会
2月	2月7日(火)	令和5年度海外派遣募集要項通知
3月	3月8日(水)	令和5年度募集説明会

令和4年度 いわて協創グローカル人材育成プログラム 派遣学生一覧

I 上期派遣

申請プログラム		E 多様性地域人材育成プログラム	
氏名等	うなかみ はるか 海上 晴香	岩手大学 農学部 共同獣医学科	3年※
留学テーマ	岩手県の家族経営型酪農家の魅力を広げる	留学先	フランス
留学期間	2022年8月23日～9月29日		38日間
インターン シップ先	事前	湯田牛乳公社、中洞牧場、小岩井農場、伊藤農場	
	事後	温泉ジェラート、三谷牧場	

2 下期派遣

申請プログラム		E 多様性地域人材育成プログラム	
氏名等	こざわ ももか 小澤 茂々花	岩手大学 農学部 共同獣医学科	3年※
留学テーマ	スイスのヒツジ・ヤギ飼育とその活用を学ぶ	留学先	スイス
留学期間	2023年2月13日～3月27日		43日間
インターン シップ先	事前	下大桑ヒツジ飼育者の会、しあわせ牧場、中村工房、ムンフバットさんの羊牧場	
	事後	下大桑ヒツジ飼育者の会、しあわせ牧場、ムンフバットさんの羊牧場	

申請プログラム		A 県產品販路開拓人材育成プログラム	
氏名等	たかはし まお 高橋 真央	一関工業高等専門学校 未来創造工学科 情報・ソフトウェア系	4年科※
留学テーマ	タイ・バンコクにおける岩手の食・文化・観光の 魅力の発信と調査	留学先	タイ
留学期間	2023年3月7日～3月26日		20日間
インターン シップ先	事前	岩手県南技術研究センター	
	事後	岩手県南技術研究センター	

※派遣時点の学年

海上 晴香

岩手大学 農学部共同獣医学科 4年

留学先： フランス アルザス地方

留学期間： 2022年8月23日～9月29日（38日間）



1 留学テーマ

家族経営型酪農の魅力を発信する

2 事前事後インターンシップでの取り組み内容及び成果

中洞牧場さんにおけるインターンシップでは、日本の酪農産業の歴史を日本の戦後復興からの経済政策と結びつけて教わった。また、酪農とは何か、偉大な酪農家、など日本の酪農のことについても教わった。加えて中洞牧場の酪農形態（放牧）について学んだ。

小岩井農場さんにおけるインターンシップでは、小岩井農場の歴史、酪農形態について、実際に農場内を車で案内していただきながら学んだ。

伊藤牧場さんにおけるインターンシップでは、伊藤牧場の歴史、酪農形態、従業員の生活スケジュールについて週単位、年単位で学び、牧場見学やお手伝いをさせていただいた。

湯田牛乳公社さんにおけるインターンシップでは、湯田牛乳公社の歴史、企業形態について教わった。さらに、日本の酪農の目指すべき方向について、企業側から見た視点でお話を伺った。

温泉ジェラートさんにおけるインターンシップでは、二日間かけて、各店舗への納品とコラボ企画の打ち合わせ、チーズの試食販売を行った。これは、自分たちの商品を通じた外部との交流という面において、フランスの牧場研修での内容と重なる部分があった。フランスの牧場では、繋がりを大切にするという面においてこうした交流を非常に大切にしていた。その態度を、私は今後も活かしたいと思ったため、インターン中は研修生という立場ということをわきまえながらも、機会があれば外部の人との関わり合いを持つよう心がけた。

三谷牧場さんにおけるインターンシップでは、泊まり込みで三日間研修をさせていただいた。共に生活をした上で、常に何かお仕事をすることがあるということを実感した。日本の酪農はお休みが少ないとということについて問題視されているが、フランスの牧場では週に二日以上休みがあり、長期休暇もとれるというように、労働環境に違いが見えた。そのことについて、フランスではどのようにしているかということについて共有させていただくことができた。

3 留学先での取り組み内容及び成果

ディジョン大学

〈活動概要〉

- ・午前、ディジョン大学で開催される短期語学学校にてフランス語を学習した。
- ・午後、授業がない日には、ディジョン地方にある農場を調べ、自転車を活用して直接訪問した。

〈成果〉

- ・ディジョン大学の短期語学学校では、Truttenhausen 農場で使用できるフランス語を中心に学ぶことができた。主にフランス語を話す農場経営者とも、円滑にコミュニケーションを図ることができた。
- ・午後の農場訪問では、ディジョン地方にある二つの農場に訪れた。一つ目は、d'Ani'nomade という福祉動物を飼育している教育農場で、二つ目は Ferme de chateau という野菜販売や近所の農場と共同でマーケットを開いている農場である。d'Ani'nomade では、動物を活用した子供達への教育や、病院患者に対する心の治療を行なっていた。この農場の見学により、フランス人の動物に対する新たな見方を感じることができた。Ferme de chateau では、フランスならではの売り方（農産物を消費者が収穫し量り売りを行う。）や、地元の食材を集めた場所を農場内につくり、販売するやり方を知ることができた。

ツルッテンハウゼン農場

〈活動概要〉

- ・平日三日間は午前と午後に分かれて2種類の研修を受けた。午前中は乳製品作りに関してであり、午後は放牧と搾乳についてである。週末は、市場が土日のどちらかで開かれているため、開かれた市場で農場の商品を売るための手伝いをした。

〈成果〉

- ・当農場での魅力発信の方法について様々な角度から知ることができた。
- ・フランス人の乳製品についての考え方や情熱について、生産者側と消費者側の両方の目線に立って知ることができた。
- ・市場での商品販売の経験から、農場のお客さんと農場とのつながりを感じることができた。
- ・Truttenhausen 農場での研修では、商品の始まり（原材料生産）から終わり（お客様への販売）までの流れに携わさせていただいた。それにより、一商品ができることの大変さについて身をもって感じることができた。

4 当プログラムに参加しての感想・協賛企業へのメッセージ

協賛企業様

この度は、私の留学プロジェクトに多大な出資をしてくださり、誠にありがとうございました。一次書類を出した時からさかのぼると約一年間、このプロジェクトを通して多くの経験をさせていただき、誠に有意義でした。

私は、大学進学のために初めて、東京都から岩手県に引っ越ししてきました。それから約3年が経ちましたが、緑あふれ、地域性のある岩手県が大好きになりました。今回の留学を通して、多くの地元企業さんとのインターンシップを行わせていただいたことや、協賛企業さんのサポートの元留学が成り立っていることを考えると、勝手ながら、より岩手県を身近に感じるようになりました。残り三年間の学生生活が残されていますが、その学生生活の間にこの留学を通して学んだことを生かし、岩手県の発展に尽力していく所存です。

5 留学費用について

約30万円；交通費(飛行機のチケット+フランス内の交通費)

約5万円；生活費

約7万円；語学学校費

約20万円；語学学校での滞在費+サポート費

約2万円；保険費用

約5万円；その他

47万円の奨学金をいただき、22万円を自費で出しました。

6 語学力について

フランス語

留学前はDuoringoというアプリケーションを使用してフランス語を学びました。

- ・簡単な挨拶
 - ・日常的な単語（動物や代名詞、乗り物、食べ物）
- についての知識を身に着けました。

留学後、私の知識として、

- ・日常的な単語(天気、数字、服、学校関連)の知識
 - ・日常的に使う文章（天気、時間、お店でのやり取り、相槌、返答の仕方）
- が増え、
- ・知っている単語や文章の聞き取り
- ができるようになりました。

小澤 茂々花

岩手大学 農学部共同獣医学科 4年

留学先：スイス、チューリッヒ

(Männedorf, Berg am Irchel)

留学期間：2023年2月13日～3月27日（43日間）



1 留学テーマ

ヒツジ・ヤギの飼育と活用について学ぶ

2 事前事後インターンシップでの取り組み内容及び成果

事前インターンシップ

[インターンシップ先：下大桑ヒツジ飼育者の会、しあわせ牧場、中村工房、ムンフバットさんの羊牧場]

ヒツジ・ヤギ飼育の基本的な方法と必要な作業について、岩手県内、さらに日本全体でヒツジ・ヤギ産業がどのくらいの規模であるのか、どのように販売を行っているのかを学んだ。スイスで学びたいことを明確化することができた。

事後インターンシップ（現在実施中）

[インターンシップ先：下大桑ヒツジ飼育者の会、しあわせ牧場、ムンフバットさんの羊牧場]

まだ1カ所にしか行けていないが、スイスの農場との違いに着目して岩手県内の農場の工夫を理解した。ヒツジ・ヤギ飼育の歴史の長いスイスの農場での飼育法、スイスでのヒツジ飼育の現状を伝えた。具体的には、もともとスイス原産の乳用ヒツジの飼育が多かったが、近年は乳用、肉用兼用のヒツジの種類の飼育を行うことが多いこと、アルプスの山を使ったヒツジ・ヤギの大規模な放牧は今も続いていることなどについて話した。農家の方の知る日本のヒツジ・ヤギ飼育の現状と比較しながら意見を交換した。秋のみが繁殖シーズンとなるヒツジ・ヤギ飼育はやはり1年というスパンで計画されて動いているため、今回の留学の春の1か月では秋の繁殖や夏季、冬季の季節変化への対応、寄生虫感染症等について学ぶのは難しく、1年は必要であると感じた。さらに、私自身がどのようにヒツジ・ヤギの飼育の発展に貢献できるか、日本のヒツジ・ヤギ飼育の在り方としてどのような形態を目指したいのか等のアドバイスを頂いた。意見交換とアドバイスを活かして今後の取り組みにつなげたい。

3 留学先での取り組み内容及び成果

ヒツジ・ヤギの生産物（ミルク、チーズ、肉）が町中でどのように販売されており、地元の人々の生活に浸透しているのかについて調査した。チューリッヒの住宅街の一般家庭と農場に出入りする人では感覚に違いがあった。スーパーマーケットではヒツジ・ヤギのミルク、チーズ、さらに一部のスーパーマーケットでは肉も見かけるものの、一般の人にはミルクや肉はあまり浸透しておらず、たまにチーズを食べるくらいであった。これに対し、農場では日常的に飲むのは農場で搾られたヒツジミルクであった。幼児が母乳の代わりに飲むのもヒツジミルクであった。スーパーマーケットで見られるヒツジ・ヤギの生産物はスイス国内で生産されたものだけでなく、ドイツやフランスからの輸入品も見られた。スイスの国旗の付いた BIO マークが描かれている食品も多く見られた。これはスイス国内産かつ有機農業の一定の条件を満たした食品であることを示しており、農薬や化学肥料を使わない草地で、基本的に放牧で飼育するなど定められた方法で飼育する農場で生産されたものにつけられる。農薬など人間の体への害を考慮したものだけでなく、家畜の動物福祉に配慮した飼育方法、つまり家畜にできるだけストレスがかからないような方法で飼育されているという条件が含まれていることは、スイスの消費者の家畜の飼育環境への関心の高さを表していると考えられた。



写真 1 : BIO マークとスイスの国旗の付いたヒツジミルク。スイスの大手スーパーマーケットのひとつ、MIGROS で売られていた。



写真 2 : 滞在したスイスの農場の畜舎の横に貼られた BIO マーク

語学学校では、短い期間でできる精いっぱいの基本的なドイツ語だけでも理解できる、使えるようになったことで、農場で新しい人に会い挨拶する際に、英語での挨拶よりも親しみを感じてもらえたと思う。子どもやお年寄りは英語を少ししか使わない人もおり、完璧な会話は難しくても、ジェスチャーと分かる限りのドイツ語を使うことでコミュニケーションを図ることができた。

また、農場では実際にヒツジの世話をを行い、その方法を学んだ。飼育されていたのは乳用種であ

る東フリージア種（Ostfriesisches Milchschaf）で、乳用の羊である。



写真 3：母羊。蹄病のため狭いところに閉じ込めて動きを制限するよう獣医師から指示を受けたため、狭いスペースの中にいる。放牧できない代わりに、毎日外で刈った草を持ってきてあげる。



写真 4：子羊。生後 2 日ほど～2 週間とばらばらなため大きさも様々。子羊同士で遊んだりもするが、兄弟でいることが多いように思われた。

スイス国内でも純粋な東フリージア種は減ってきており、現在は乳肉兼用の羊が多くなってきてている。毎日小屋の掃除、外のブドウ畠にヒツジを放し、餌と口笛とで小屋の中に戻し、干し草と野菜（ニンジン、ビーツ、ジャガイモ）、たまにヒツジ用のペレットを与えて、手で搾乳を行った。毎日の基本的な世話の方法を身につけたとともに、獣医師によるヒツジの治療の見学をする機会も得られた。獣医師は毛が生えた状態での採血、ヒツジをひっくり返しての削蹄までも慣れた手つきで行っていた。岩手の事前インターンシップで訪れた農場では、ヒツジの治療を頼める獣医師を見つけるのが大変なうえ、治療費が割に合わなくなってしまうために、獣医師を呼ぶことは少ない。ヒツジに詳しい農家でも何かあれば獣医師を呼ぶということから、スイスにおいてヒツジが重要な産業動物であること、ヒツジを含めた獣医療の仕組みが整っていることを感じる出来事になった。

滞在期間はヒツジの出産シーズンだったが、ヒツジは安産が多く、夜に小屋の中で生まれていることがほとんどだった。子羊は母ヒツジから直接母乳を飲んで育っていたが、母羊もみな人間に慣れているので、子羊も人間に慣れていた。搾乳するときには子羊が人間の服の後ろを噛んでみたり登ってみたり、掃除中の道具に近寄ってきては逃げたりとまるで子犬のように人間に近づいてきて遊ぶ時もあった。農場の人は皆当たり前のようヒツジに話しかけながら扱っており、子育ては母ヒツジに任せながら、それぞれコミュニケーションをとって様子や健康のチェックしつつ人にも慣らしていた。岩手県内のインターンシップで見学した牧場では子羊・子ヤギは人に慣らすこと、生存率を上げることを目的として分娩後すぐに子どもを母から離し、搾乳した初乳を授乳していた。

この牧場との違いの背景には、家畜を生産性重視で人の手を加えて飼育するか、家畜をただそばに置いて必要なものを与えて飼育し、得られる利益は人間が得るのかという家畜飼育の形態の違いがあると感じた。

ヒツジ一頭からは大抵二頭の子羊が生まれ、私の滞在期間にはなかったが、3頭生まれると生まれた時点で小さく生き残れないとのことだった。(事前・事後インターンシップで訪問した農場では全て人の手で授乳しており、3頭、時に4頭生まれるがほとんどが生き残ることだった。)母羊、特に子羊の様子は毎日チェックしていて、母から十分なミルクを飲めず、兄弟より体が小さい子羊には哺乳瓶と搾乳したミルクを使って授乳した。3週間もすると子羊は自分たちで草を食べだしておらず、7か月ほどたった秋に子羊は肉用に出荷される。去年の子羊の肉と毛皮が農場のファームショップで売られており、骨は夕食で飲むスープを作るのにも使われていた。ヒツジミルクは子羊のいないヒツジ(キツネに食べられた、体が弱く生存できなかつた等の理由で子羊が死んでしまった母羊を他の農場から引き取ったもの)のみから搾乳していたため3から4頭のみだったが、子羊が離乳したら全て人間用になり、それらからはチーズが作られる。チーズ作りも農場の人が行うので、私の滞在期間がチーズ作りの始まる前に終わってしまったのがとても残念だった。

4 当プログラムに参加しての感想・協賛企業へのメッセージ

プログラムに参加しての短期留学では、私の留学のテーマに関わる多くの人からの学びを得たうえで明確な目的をもって渡航することで、現地では調査したいことや学びたいことに集中できる環境ができ、毎日が充実した海外留学を行うことができた。このプログラムを通してヒツジ・ヤギの魅力をより感じたが、同時に、産業であるからこそアプローチの難しさを感じた。ヒツジ・ヤギ産業は、ヒツジ・ヤギそのものが持つ特性に加え、産業動物としての普遍性も持っているということも感じた。

プログラムに参加する前には、ヒツジ・ヤギの魅力、メリットを生かした貢献ができるようになりたいと思っていたものの、その方向が分かっていなかった。しかし、インターンシップ、留学を通して、産業動物の動物福祉に関するスイスの農家の取り組み、日本とスイスの農業と家畜飼育の認識の違い、認証制度による有機農業(産業動物の飼育含む)の普及、農業に多くの人が参画しやすい仕組みと消費者の畜産物への関心のつながりなど、新しい視点も見つけることができた。この中でも特に、スイスのBIOマークの有機農業の認証制度を日本で応用し実現化していくにあたり、ヒツジ・ヤギの活用から少子高齢化地域の地域活性化につなげられるのではないかと考えるようになった。農作物についての有機農業への取り組みを行う農家は増えてきているが、畜産分野について大きな変化はないままである。薬剤や化学肥料を使わないことに加えて動物福祉に考慮した形態で行う、というスイスの有機農業の認識を日本でも広げられれば、耕作放棄地を含む岩手の傾斜地でのヒツジ・ヤギの放牧飼育の価値が広く認識されるようになるのではないかと考える。さらに農作物、家畜両方の有機農業の取り組みは、海外から批判の多い日本の工業化した畜産の評価を変え、

輸入飼料に頼ることで不安定な日本の酪農と畜産を安定化させるといった大きな変化につながる。

このような将来を目指すために、獣医学生としてまずヒツジ・ヤギを診察できる獣医師になり、現在農家にとって大切な家畜の健康管理に貢献したいと考えている。経験を積み、ヒツジ・ヤギを通して家畜飼育をめぐる課題の改善に貢献する足掛かりを作っていくことが今の自分のできる第一歩であると考えている。

5 留学費用について

ヨーロッパへの渡航費と学費がまずとても大きな出費で、さらに現地の交通費がとても高かった。ハーフフェアカードと言われる割引制度などの活用や、ホームステイ、ファームステイの家族に交通費のチケットを効率よく買うにはどうしたらよいかなど教えてもらったが、現地での交通費での出費は大きかった。

語学学校は今まで自分だけでは金銭的に難しいと考えていたが、今回の補助を頂いて2週間通うことができた。現地の人とのコミュニケーションでのドイツ語を活用することができ、語学学校での学習はとても有意義なものになった。

6 語学力について

私は大学での外国語の必修の授業が終わった後も、英語でスムーズにコミュニケーションが図れるようになるための努力をしてきた。今回英語もたくさん使う機会があり、自分の課題点を見つけることができ、様々なアクセントの英語を話す人と話す機会が多くなったため、自分の聞く力の弱さを感じた。英語での会話が聞き取れない、また聞き取れても発言するにはスピードについていけないなど、悔しい思いをする機会もあったが、英語の学習に対するモチベーションになった。英語の学習動画や英語のオーディオブック等で学習したり、スイスでできた英語ネイティブの友人の言葉やイントネーションをまねたりしているうちに、会話に入っているときの緊張感が少しづつ減って会話を楽しめるようになった。複雑な質問をすること、複雑で長文の返答もある程度理解することができるようになり、留学当初に比べて後半ではヒツジ・ヤギについて詳しい情報を得られた。聞き返さなければならないときもみな親切に答えてくれて、言語が拙くても、人と関わることの楽しさと人の優しさを感じた。

また、大学1年時の第二外国語選択でドイツ語を少しだけ学んで以来のドイツ語を学ぶ機会も得て、理解できることが増える楽しさを感じた。はじめは全く分からなかった電車内のアナウンスも、何回も聞いて少しづつ単語を覚えるうちにいくつかの単語が分かるようになってきた。スイスではスイスドイツ語 (Sweitz Deutch) といわれる、ドイツのドイツ語 (Hof Deutch) とは単語や発音の仕方が違う言語が話される。挨拶だけでもできるようになり、1日の始まり、終わり、食事の時、お礼を言いたい時、さらに農場があった小さな村に住む近所の人とすれ違った時に、その土地の言葉で挨拶を言えると、気持ちが伝わりやすいということを実際に感じた。同じ農場で働いていたドイ

ツ語とフランス語しか話さないというお爺さんにもドイツ語で頑張って話していたところ、日本に興味を持ってくれたり、何かと親切してくれたりして、その場所の言語を学ぶということの現地の人に対する意味はやはり大きいことも感じた。

高橋 真央

一関工業高等専門学校 未来創造工学科

情報・ソフトウェア系 5年

留学先：タイ・バンコク

留学期間：2023年3月7日～3月26日（20日間）



1 留学テーマ

“タイ・バンコクにおける岩手の食・文化・観光の魅力の発信と調査”

盛岡冷麺をはじめとする岩手県の魅力について、タイ・バンコクでのPRを通して得られる、認知度や現地の人の指向に関する調査結果をまとめ、それをもとに観光のためのSNSの活用の仕方や岩手県の魅力のアピールポイントについて検討します。また、事前事後インターンシップや学校のサークル活動等で成果を発信することで多くの人から意見をいただいたり、協力してもらったりしながら活動を進めています。

2 事前事後インターンシップでの取り組み内容及び成果

[事前事後インターンシップ先：岩手県南技術研究センター]

事前インターンシップでは主に提供していただいた資料やネットを用いて岩手県産業の現状について調べたり、社員の方や前一関市長との面談を通じて最適な岩手県のPRの方法を話し合ったりしました。それによって岩手県の産業や経済の統計や実際に行われている活動について以前より正確に知ることができました。そこから私自身、岩手県産業を活性化させたいという気持ちが強くなりました。事後インターンシップはまだ本格的に活動できていませんが、主に企業の地域連携事業について学ばせていただきたいと考えています。また、空き時間には施設の資料を借りたりネットで調べたりして観光動画作成を進めていこうと思います。

3 留学先での取り組み内容及び成果

留学先である泰日工業大学の学部の教員会議にて、岩手県の観光や食の魅力について、主に自分のお気に入りをPowerPointに写真を載せながら、英語でプレゼンテーションを行いました。その後、YouTubeにあげられている、岩手県観光の動画を視聴していただきました。また、タイ人の日本への興味を知るためのアンケートをGoogle Formsで作成し、プレゼンを聞いた方々に回答していただきました。それによって、岩手の知名度や日本の何が魅力的かを調査しました。さらに学生と交流を深める中で岩手県の知名度を探ったり、日本に来た経験や日本に旅行するための目的を聞いたり、SNSでつながったりして、どのように岩手県を広めていけるかを考えました。学校がない日にも、学生や教員、現地の日本人とコ

ミュニケーションをとることで、タイの文化やバンコクでの日本人の生活、コミュニティについても学びました。

4 アンケート結果について

アンケートでは日本に旅行する場合に利用する SNS や旅行したい季節、都市について調査しました。例えば、日本に旅行したい季節について質問したところ、1番人気だったのは”秋”でしたが、”夏”を選択した人は一人もいませんでした。また、2023 年に岩手県・盛岡市がニューヨークタイムズに取り上げられたことについて知っているか聞いたところ、知っている人はいませんでした。そして、プレゼンを聞いた方々の多くが日本に旅行をしたことがあり、特に人気なのは北海道でした。留学中にも日本語や日本の地名が入った商品がたくさんあり、「日本産は安心」と話してくれる学生もいました。

アンケート結果は excel のファイルで保存しており、グラフなどで視覚化したものを作成し、インターンシップ先や交流サークルで共有したいと考えています。

5 当プログラムに参加しての感想・協賛企業へのメッセージ

事前インターンシップを通じ、岩手県の観光や産業の現状や岩手県で活躍している人を調べたことにより、以前より岩手県の魅力や面白さを多くの人に伝えたいと強く思うようになりました。また、インターンシップや留学先で交流した方々と意見を言い合って考えを深める中で人とのつながり、コミュニケーションの大切さを改めて学ぶことができました。

そして、ただ語学留学をするよりも、自分が伝えたいことを現地の人に伝えるために積極的にコミュニケーションをとらざるを得なかったことも、この留学の良さだと思います。それによって相手もその気持ちに応えてくれ、現地の人と打ち解けることができました。

今回のプログラムでは岩手県の観光・産業について学べたのはもちろんですが、それ以外にも重要なことを学ぶことができ、有意義な留学とすることができます。まだ事後インターンシップを行っている最中ですが、自分が学んだことや実現したいことを多くの人に伝えて、周りの人を巻き込んで取り組んでいくことを意識していきます。このような機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。

6 留学費用について

下記の表は、留学費用をまとめたものです。降順に並んでおり、航空券、ホテル代、食費が留学費用の大部分を占めています。全部で約 34 万円かかりました。

No.	項目	費用（円）
1	航空券往復（日本 ⇄ タイ）	126820
2	ホテル代（留学先）	102682
3	現地の食費等	50000
4	交通費（自宅 ⇄ 空港）	22910
5	スーツケース配送、タクシー代（留学先）	11508
6	海外保険料	10980
7	携帯通信料	10780
8	東京宿泊（帰り分）	3299
	合計	338979

7 語学力について

今回留学したタイ・バンコクの方々の英語力は、日常英会話を習得している方から挨拶を知っている程度の方まで人によりさまざまでした。ただ、有名な観光地や市場、ホテルでは英語で話すことができました。留学先が”泰日”工業大学だったことや、バンコク自体が観光地で日本人も多く住んでいることから、英語より日本語が通じるということが多々ありました。そのため、現地では特定の人（4, 5人ほど）とのみ英語でコミュニケーションを取りました。留学中は英語、日本語、タイ語を使用していましたが、驚いたのは単語がわかれればほとんど問題なくコミュニケーションを取れるということです。発音も多少のなまりがあっても察してもらうことができるし、文法はバラバラでも通じることが多かったです。3週間のタイでの留学では TOEIC に生かせるような英語力はつかないかもしれません、伝えることができるという自信がつき、自分が勉強すべきこと（わたしの場合は単語）を明確にすることができるため、日常英会話を学ぶために効果があるのではないかと感じました。私自身、留学以降は、TOEIC のための単語だけでなく、英語のインタビューや SNS で解説されているネイティブの会話を中心に勉強するようにしています。

当協議会における海外留学派遣支援実績
(平成 29 年度～令和 4 年度)

I 概況

支援スキーム	文部科学省 トビタテ！留学JAPAN				協議会独自		
年 度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	計
応募者数(人)	8	7	9	8	—	6	38
支援者数(人)	7	5	8			3	23
奨学金支給額	4,816千円	2,774千円	7,142千円		新型コロナウィルスの感染拡大のため派遣中止	1,134千円	15,866千円
内 訳	国交付金	3,064千円	1,664千円	3,997千円		—	8,725千円
	協議会	1,752千円	1,110千円	3,145千円		1,134千円	7,141千円

2 支援内容

(派遣学生所属先、概要 [①海外研修テーマ、②海外研修期間と研修国、③事前事後インターンシップ先])

平成 29 年度（支援者 7 名）《トビタテ！第 7 期生》		
1	岩手大学 教育学部	① カナダの駅舎から受けるインスピレーションを活用した魅力的な「玄関」としての駅舎構築による、列車を利用したいわて観光の浸透《コース C》 ② 1か月／カナダ ③ 事前事後) IGR いわて銀河鉄道(株)、(株)サラダファーム
2	岩手大学 農学部	① 世界へ羽ばたけ！ Japanese SAKE 南部美人《コース A》 ② 2か月／アメリカ ③ 事前事後) (株)南部美人、酒米農家、事前のみ) Sake Discoveries, LLC
3	岩手大学 人文社会科学部	① 「岩手発」で再生可能エネルギーの浸透を－欧州の先行事例に学ぶ－《コース D》 ② 5か月／ドイツ・スイス ③ 事前) 岩手県中小企業家同友会 事後) サステナジー(株)岩手営業所
4	岩手大学 農学部	① ロハス的な理想郷を目指して 地域と考える、豊かなまちづくり《コース D》 ② 2か月／イギリス、ドイツ、スイス ③ 事前事後) 岩手県中小企業家同友会
5	岩手大学 人文社会科学部	① 世界の被災地から学ぶ多文化社会《コース D》 ② 1か月／インドネシア ③ 事前) 岩手県（総合防災室）、遠野まごころネット 事後) 遠野まごころネット
6	岩手県立大学 盛岡短期大学部	① “被災地いわて” から “観光の街いわて” へ！私たちが住みたくなる街は、私たちの手で作る。《コース C》 ② 6か月／台湾 ③ 事前) (株)岩手ホテルアンドリゾート 事後) 北上観光コンベンション協会
7	一関工業高等 専門学校	① バイオマス分解因子と基質の相互作用観察（等温滴定型熱量測定）《コース D》 ② 1か月／ノルウェー ③ 事前) (公財)岩手県南技術研究センター 事後) 県農業研究センター

平成 30 年度（支援者 5 名）《トビタテ！第 9 期生》

1	一関工業高等専門学校	① タイでの多様なコメ食文化を通じて岩手の米の消費拡大を考える ～米麺の可能性・三大麺から四大麺へ～《コース C》 ② 1か月／タイ ③ 事前) (公財) 岩手県南技術研究センター 事後) 県農業研究センター
2	岩手大学 農学部	① リンゴで橋を。岩手からベトナムへ《コース A》 ② 5か月／ベトナム ③ 事前) (株)柳家・白金運輸(株) 事後) (株)柳家
3	岩手大学 人文社会科学部	① I DESIGN いわての木製雑貨で起業！《コース A》 ② 3か月／イギリス、フィンランド ③ 事前事後) 岩泉純木家具(有)
4	岩手大学 農学部	① かもめの玉子の力で岩手の魅力を世界へ発信！《コース A》 ② 2か月／台湾 ③ 事前事後) さいとう製菓(株)
5	岩手医科大学 医学部	① ハンガリー ペーチ大学での短期留学《コース E》 ② 1か月／ハンガリー ③ 事前事後) 岩手県医師会

令和元年度（支援者 8 名）《トビタテ！第 11 期生》

1	岩手医科大学 医学部	① ハンガリー ペーチ大学にて医療を学ぶ《コース D》 ② 1か月／ハンガリー ③ 事前事後) 県内医療機関
2	一関工業高等専門学校	① RMIT(Royal Melboune Institute of Technology) 大学で行う、漫然運転防止のためのウェアラブル型デバイスの開発《コース B》 ② 3か月／オーストラリア ③ 事前事後) (公財) 岩手県南技術研究センター
3	岩手大学 人文社会科学部	① 大船渡市の活性化を目指す観光のエキスパートへの第1歩プロジェクト《コース C》 ② 2か月／アメリカ ③ 事前事後) 大船渡市商工港湾観光推進室、JF 綾織漁業協同組合
4	岩手大学 教育学部	① 児童文学を生かした観光《コース C》 ② 2か月／カナダ ③ 事前) 花巻市生涯学習部賢治まちづくり課、花巻観光協会 事後) 花巻市生涯学習部賢治まちづくり課
5	岩手大学 教育学部	① 表情豊かな自然で伝えるいわて観光の魅力《コース C》 ② 5か月／カナダ ③ 事前事後) 盛岡市市民文化部文化国際課、県商工労働観光部観光課、IGR いわて銀河鉄道
6	岩手大学 理工学部	① 自然が豊かな岩手県における、木質バイオマス資源の利用による循環型社会の実現をスウェーデンから学ぶ《コース D》 ② 5か月／スウェーデン ③ 事前事後) 紫波グリーンエネルギー(株)

7	岩手大学 教育学部	① 地域に根差した ICT 教育～児童の未来を支え、教員に負担の少ない社会を創る《コース E》 ② 5か月／オーストラリア ③ 事前事後）県内小学校、岩手県立総合教育センター、IGR いわて銀河鉄道他
8	岩手大学 教育学部	① インクルーシブ教育の充実に向けて《コース E》 ② 6か月／オーストラリア ③ 事前事後）県内小中学校
令和2年度		
新型コロナウイルス症の感染拡大のため、応募学生の採用を見送った。		
令和3年度		
新型コロナウイルス症の感染拡大のため、海外留学派遣募集を中止した。		
令和4年度		
1	岩手大学 農学部 共同獣医学科	① 岩手県の家族経営型酪農家の魅力を広げる《コース E》 ② 38日間／フランス ③ 事前）湯田牛乳公社、中洞牧場、小岩井農場、伊藤農場 事後）温泉ジェラート、三谷牧場
2	岩手大学 農学部 共同獣医学科	① スイスのヒツジ・ヤギ飼育とその活用を学ぶ《コース E》 ② 43日間／スイス ③ 事前）下大桑ヒツジ飼育者の会、しあわせ牧場、中村工房、ムンフバットさんの羊牧場 事後）下大桑ヒツジ飼育者の会、しあわせ牧場、ムンフバットさんの羊牧場
3	一関工業高等 専門学校	① タイ・バンコクにおける岩手の食・文化・観光の魅力の発信と調査《コース A》 ② 20日間／タイ ③ 事前事後）岩手県南技術研究センター

「いわてグローカル人材育成推進協議会」会員企業・団体（50音順）

令和5年6月1日現在

第1号会員

団体

公益財団法人岩手県観光協会
岩手県商工会連合会

一般社団法人岩手県建設業協会
岩手県中小企業団体中央会

岩手県商工会議所連合会

企業

I G Rいわて銀河鉄道株式会社
いわぎん事業創造キャピタル株式会社
株式会社岩手日報社
及源铸造株式会社
さいとう製菓株式会社
白金運輸株式会社
株式会社中央コーポレーション
株式会社トーノ精密
株式会社日ピス岩手一関工場
株式会社ミクニ
株式会社盛岡地域交流センター
リコーインダストリアルソリューションズ株式会社花巻事業所

アイシン東北株式会社
株式会社岩手銀行
株式会社岩手ホテルアンドリゾート
株式会社北日本銀行
株式会社 JTB 盛岡支店
株式会社たまごファクトリー（サラダファーム）
株式会社テレビ岩手
株式会社ナレロー
東北リゾートサービス株式会社
みちのくコカコーラボトリング株式会社
株式会社柳家

株式会社アイビーシー岩手放送
株式会社岩手県北自動車
株式会社いわてラボ
株式会社ゴーイングドットコム
株式会社十文字チキンカンパニー
株式会社千田精密工業
株式会社東北銀行
株式会社南部美人
株式会社ベスト
盛岡ターミナルビル株式会社
谷村電気精機株式会社
和同産業株式会社

機関

岩手県

岩手大学

公益財団法人岩手県国際交流協会

第2号会員

団体

一般社団法人岩手経済同友会
岩手県中小企業家同友会
独立行政法人国際協力機構東北センターJICA 岩手デスク

一般社団法人岩手県医師会
いわて高等教育コンソーシアム

岩手県森林組合連合会
公益財団法人いわて産業振興センター
公益財団法人ふるさといわて定住財団

企業

株式会社アイシーエス
株式会社岩手めんこいテレビ
株式会社小林精機
株式会社西部開発農産
株式会社東亜電化
東京海上日動火災保険株式会社盛岡支店
花巻温泉株式会社
富士通株式会社岩手支店

岩手県空港ターミナルビル株式会社
川嶋印刷株式会社
三陸鉄道株式会社
株式会社タカヤ
東京エレクトロンテクノロジーソリューションズ株式会社
東北電力株式会社岩手支店
富士フィルムビジネスイノベーションジャパン株式会社岩手支店
株式会社ユアテック岩手支社

岩手県産株式会社
けせんプレカット事業協同組合
株式会社ジャパンセミコンダクター
株式会社デンソー岩手
株式会社長島製作所
株式会社吉田測量設計

市町村

盛岡市
北上市
雫石町
西和賀町

大船渡市
一関市
紫波町
軽米町

花巻市
奥州市
矢巾町

いわてグローカル人材育成推進協議会

令和 5 年 6 月

Email glocal-iwate@iwate-ia.or.jp
URL <https://iwate-glocal.jp/>

- 岩手県ふるさと振興部国際室内 〒020-8570 盛岡市内丸 10-1
TEL 019-629-5765 FAX 019-629-5254
- (公財) 岩手県国際交流協会 〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通 1-7-1
いわて県民情報交流センター（アイーナ）5階
TEL 019-654-8900 FAX 019-654-8922